

ふるさと わがまち わが地域

善王寺の人口、世帯などは

平成25年3月末現在
世帯数 612世帯
人口 1,706人(男849人・女857人)

区事務所：京丹後市善王寺 1058番地
区運営：常勤の区長、事務員と用務員(週1日)
非常勤の副区長、評議員、班長
電話：0772-64-3082

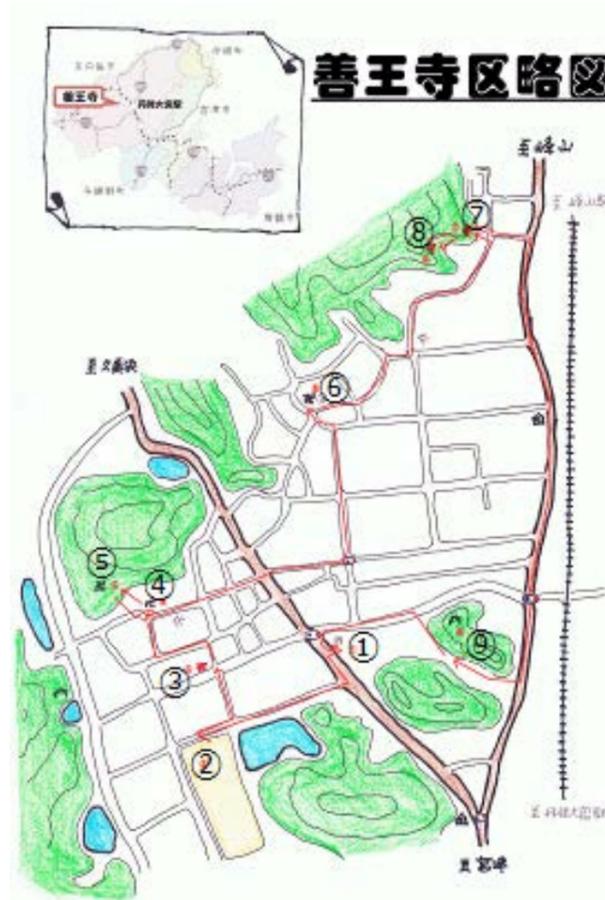


新しくなった善王寺公民館

建設年度 平成25年3月
構造 木造瓦葺き平屋建
建築面積 489.98㎡
敷地面積 2,882.80㎡

善王寺を歩いてみよう

善王寺公民館①→(公民館を背にして、左方向に一筋目を右折。徒歩8分)
→大宮自然運動公園②→(公園から来た道に戻り一筋目を左折。徒歩5分)
→住吉神社③→(鳥居を背に、一筋目を左折、さらに一筋目を右折。徒歩6分)
→三要寺④→(寺を正面にして左の石段を上がる。徒歩1分)→毘沙門堂⑤(石段を下がり、そのまま直進、点滅信号のある交差点を左折そのあと直進し、突き当たりを右、左とクランクに曲がる。徒歩10分)→浄善寺⑥→(寺を背に左方向へ、「イーグル」のある交差点を左折。徒歩8分)→愛染堂⑦→(鳥居を背にして左へ、さらに「浅井プラパーツ」の方に左折。徒歩5分)→菊岡神社⑧→来た道に戻り、そのまま直進、T字路に出たら府道に右折、そのまま左右に古戦場跡を見ながら直進、三色信号交差点を通過し、丘陵を通り過ぎたら右折。徒歩15分)→平岡城跡⑨→(城跡は荒廃しているので、麓で城跡を想い農道を直進。徒歩4分)→善王寺公民館①(お疲れ様でした)



善王寺ってどんなところ

「善王寺」という地名は、天文10(1541)年頃の「丹後国御檀家帳(たんごのくにおだんかちょう)」にある「せんわうし(善王寺)」という寺の名前に由来しています。善王寺という寺は、戦国時代に焼けてしまい残っていませんが、その名前は地名として残っています。

この地区では、弥生時代から生活をしてきた痕跡がみられます。奈良時代には、須恵器(すえき)という焼物をつくっていた阿婆田(あばた)窯跡が操業しています。

善王寺は、はじめは宮津藩領でありましたが、元和8(1622)年からは峰山藩領、明治4年峰山県、豊岡県を経て、同9年京都府に所属しました。

その後、隣接の長岡村と善王寺村が合併して、明治22年に長善村(ちょうぜんむら)となりましたが、長岡と善王寺の間が丘陵で二分されていたことから、昭和31年9月30日に、善王寺が大宮町に、長岡が峰山町に分村しました。

善王寺の主な地域活動は

善王寺の主な地域活動は、次のボランティア団体などにより活発に行われています。

- 区
 - 地域住民の協力のもと、「区内清掃」「河川・用水路の草刈・草焼」「山道づくり」「街灯の保守・管理」など地域内の生活環境保全活動を含む地域住民のための行政事務。
- 公民館
 - 「納涼祭」「区民グランドゴルフ大会(運動会)」「歩こう会」「文化祭」「ひな祭」など地域住民相互の親睦、健康増進などのための活動。
- 自主防災会
 - 毎土曜日夜の防犯パトロール、災害発生時の救護活動補助などの活動。
- 地区社協
 - 毎月第2金曜日、公民館で未就学児童の保育活動「ぴよぴよ」、毎月第3土曜日、「ふれあいサロン」や、区開催の「敬老会」への協力などの活動。
- プーフ・まむ
 - 年間を通じ、本貸出(毎週水曜日)。七夕笹かざり、文化祭・ひな祭りでの本の読み聞かせなどの活動
- 善王寺花火会
 - 7月7日開催の毘沙門夏祭りに、花火の打ち上げ。
- 消防団
- アベサンショウウオ保存会
- 朝市、春祭り、夏祭り、秋祭りなど活発に地域活動が行われています。

大宮自然運動公園



施設概要

- ◆ 22,000㎡ (変形グラウンド)
- ◆ 2,600㎡ (テニスコート、サンドグラス方式)
- ◆ 野球1面、ソフトボール1面、テニスコート2面
- ◆ 軟式野球ナイター設備
- ◆ キャンプ場



ナイター施設完備のグラウンド

芝生広場 (もくせい館)



三要寺

薬師如来と十一面観音が安置され、堂内に弘法大師の像が祀られている。



毘沙門堂

家内安全、家業繁栄、福壽増長等庶民生活の平和を獲る福の神として近隣信仰を集めている。

「峰山旧記」「長善村誌」には、永和3(1377)年、真海法印を開基、真言宗安得山善王寺と称し、境内に毘沙門天を祭っていたと記されている。その後、慶長年間(1596~1614)に、寂翁和尚が曹洞宗に改め、小溪山長福寺と改号しました。

寛文年間(1661~1672)、河辺萬休院中興開山嵩山和尚によって諸堂伽藍が建立、再興されましたが、元禄8(1695)年に、峰山藩三代藩主高明氏の臨済宗改宗宣下を受け入れ、享保元(1716)年、臨済宗天竜寺派全性寺(峰山町)末となり、山号寺院名を松溪山三要寺と改称した。

永和3年(1377)年、古刹善王寺の大伽藍跡に真言宗安得山善王寺が建立されるに及び、その境内地(通称古毘沙門山)に毘沙門堂も移し、大いに栄えたが、善王寺は元亀2年(1571)年織田信長による戦乱の兵火と、文禄2年(1593)年細川忠興の丹後真言倒しの大難に逢い、礎石を残して跡形もなく焼失滅亡したが、毘沙門天の御尊像だけは不思議と微損もなく、村人達はその靈験の崇かさに驚愕し密かに仮堂を建て礼拝していたという。

住吉神社

一条天皇の時、大江山の山賊退治に、源頼光を将とし藤原保昌を先導として、これを平定(正暦3年(992))その論功によって、保昌は丹後守に任じられたという。

藤原保昌はかねてから守護神として住吉神社を尊崇し、ここに山賊退治を祈願して、その大願が成就したので、住吉神社の分霊をこの地に祀ったという。



アベサンショウウオ



昭和7(1932)年4月、当時の中郡長善村姫宮神社(現大宮町善王寺姫御前)付近の竹林内の水溜りで、カニ採りに来た児童が、種不明の小型サンショウウオの幼生を見つけたことに始まり、広島文理大学(現広島大学)の佐藤博士が新種として認定、昭和9年(1934)年、恩師の名にちなんでアベサンショウウオと命名されました。

その生息地は丹後地域の宮町、峰山町、網野町、弥栄町、及び兵庫県北部で拠点的に確認されています。

昭和59(1984)年4月には、京都府の天然記念物として種が登録されました。

浄善寺



万治元(1658)年に開祖され、本山は浄土真宗本願寺、本尊は阿弥陀如来です。

愛染堂(庵)



享保3(1718)年に建設され、日蓮宗本昌寺の境外仏像、本尊は愛染明主・大黒天です。

菊岡(姫宮)神社



人間相剋の戦国時代に政略の犠牲となった薄幸の姫を祀り、この祠を建てたと伝えられる。

善王寺跡



石地藏5、6体を並べ祭ってありますが、昔、毘沙門堂のあった旧蹟であるといわれています。

平岡城跡



丹後の武士・武藤右京進政情が、元応元(1319)年に築いた城と言われている。

阿婆田(あばた)窯跡



奈良時代後半須恵器を製産していた遺跡です。